

# だいせんの偉人先人たち

たか み きん いち ろう  
高見金一郎



【分類】 ぶんか 文化

【生没年】 1886年 ~ 1946年

( めいじ 明治19年 ) ( しょうわ 昭和21年 )

みなみならおかそんちょう ちょうなん 南檜岡村長の長男として生まれ、11歳よりはいく俳句を始めた。県内誌のほか中央誌「日本及日本人」に投句、明治41年（1908）春から連続採用され、へきごとう碧梧桐の門下となり、おぎわら せいせんすい荻原井泉水らと共にへきもん じつてつ碧門十哲のひとりに数えられた。石井露月にも師事し、同郷の堀井白果仙（本名・徳五郎）と地元「雷会」を設立した他、大曲の「白虹」俳句欄の選者をつとめ、神宮寺（大仙市神岡）のきよきこう富樫小兎らと図り周辺地区の句会を盛り上げるなど、地域の俳句振興にも力を注いだ。俳号は「巨鬼工」。父の後を受けて昭和7年（1932）から昭和15年（1940）まで南檜岡村長を務めた。

出典 『南外村史通史編』2003、南外村史編集委員会／編